

ホクレン営農支援情報

(2022年1月号)

●多様な人材確保に向けた取り組み《北見支所 営農支援室》

オホーツクでは、農家人口が減少傾向で労働力の確保が年々困難となる中、「オホーツク農業振興方策」において、人材確保、定着に向け取り組んでいます。その中で、ホクレン北見支所営農支援室では、各関係・協力機関と連携し、他業種との人材マッチングや各種研修会の開催による人材教育支援などを行ってきました。

最近では、多様な人材の確保に向けた取り組みの一つとして、令和2年より自衛隊退職予定者の再就職支援を行っている美幌駐屯地就職援護センターと情報交換を密に行い、自衛官の再就職先の一つとして農業分野も選択されるよう努めています。

今回、北海道オホーツク総合振興局の主催により、「退職予定自衛官の農業分野における現場体験会（農業インターンシップ）」を開催しました。定年退職時期の近い4名の隊員が参加し、体験会に協力した各組織の業務概要紹介、畜肉加工施設や選果場視察、トラクター実機見学など農業に係る体験をしてもらいました。

インターンシップ後のアンケートでは、「企業の仕組みを知ることができた」「一部の経験だったが就職に対して意識が変わった」「とても良かった」などの意見があり、農業分野を選択肢の一つとして検討していきたいとの声が聞かれました。

今後も、各関係・協力機関と連携し、人材確保に向け継続して取り組んでいきます。



株式会社北海道畜産公社北見工場
畜肉加工施設の業務概要紹介



美幌地方広域農業協同組合連合会
選果場の視察



美幌町農業協同組合コントラクター課
トラクター実機見学

●長期貯蔵メロンの取り組み《倶知安支所 営農支援室》

JA ようていでは、全国的にメロンの出荷量が減少する 12 月に安定的に出荷する取り組みをしています。12 月にメロンを出荷するために、これまでホクレン食品流通研究課で貯蔵試験を重ねてきた鮮度保持フィルムを活用。10 月中旬に収穫したメロンをこのフィルムで包装し冷蔵保管しました。また、12 月に先立ち 11 月 19 日からくるるの杜で販売を開始。新聞やラジオといったメディアで取り上げられたこともあり、お客様から大きな反響がありました。

今後は、次年度へ向け品質保持の改善や販路拡大に向け取り組みを検討していきます。



鮮度保持フィルム Xtend®



11 月 19 日くるるの杜での販売



●女性農業者基本スキルアップ Web セミナーを開催しました《営農支援推進課》

営農支援センターでは、12 月 17 日に「女性農業者基本スキルアップ Web セミナー」を実施しました。女性農業者を対象に、生産者、JA、関係機関含め約 70 名と多数の方が参加しました。

基本知識の習得を図ってもらうことを目的に、「農作業安全」「GAP でみる農場内の安全管理」「スマート農業の概要」「自動操舵トラクターとガイダンスの仕組みと基本操作」のカリキュラムで実施。Web での開催によりトラクター等の実演操作ができないことから、事前に収録した実演動画を視聴することで、理解を深めてもらうようにしました。

参加者からは、「新しいことを知るきっかけや改めて安全に仕事をしようと気付いた」「ホクレン RTK システムが何かを知ることができた」などの声が聞かれました。



12月17日女性農業者基本スキルアップWebセミナー

●担い手向けWeb研修会を開催します《営農支援推進課》

営農支援推進課では、就農年数の短い担い手の人材育成を目的とした研修を実施しています。今回の研修会は、1月31日より「トマト・ミニトマト」、2月28日より「水稻」、「小麦・豆类」をテーマとし、YouTube内の「ホクレンアグリポートチャンネル」で限定公開（録画した講義）します。受講対象は農家後継者（概ね就農5年以内のUターン、親元、新規就農者など）としていますが、基本的な知識を学びたい生産者は、ぜひお申込みください。

お申し込みは、JAを通じてホクレン各支所営農支援室へお願いします。

<トマト・ミニトマト>

研修内容	講師	予定時間
トマト・ミニトマト栽培の基礎	ホクレン園芸作物開発課	75分
生産現場における技術改善の取り組み事例	道庁農政部生産振興局 技術普及課	30分
ミニトマト栽培における環境モニタリングの事例紹介	ホクレン営農技術課	10分
トマト・ミニトマトの病害虫防除	ホクレン技術普及課	50分
残留農薬検査の取り組みと安全な農産物の出荷に向けて	ホクレン検査分析課	30分
ういず One・調光フィルム	ホクレン資材課	30分

<水稻 研修内容>

研修内容	講師	予定時間
水稻栽培の基礎	北海道農産協会	50分
生産現場における良質米生産と経営改善の取り組み事例	道庁農政部生産振興局 技術普及課	50分
省力化栽培の取り組み	ヤンマーアグリジャパン(株)	30分
水田土壌の仕組み	ホクレン肥料農薬部	30分
水田の病害虫・雑草防除	ホクレン技術普及課	60分
残留農薬検査の取り組みと安全な農産物の出荷に向けて	ホクレン検査分析課	30分

<小麦・豆類 研修内容>

研修内容	講師	予定時間
小麦の生育と栽培管理の基礎	北海道農産協会	40分
豆類の生育と栽培管理の基礎	道庁農政部生産振興局 技術普及課	60分
畑作における土づくり ※排水対策、物理性と生育の関係等	ホクレン肥料農薬部	45分
畑作の病害虫と防除法	ホクレン技術普及課	60分
残留農薬検査の取り組みと安全な農作物の出荷に向けて	ホクレン検査分析課	30分

●「輪作」を考える時のツール《営農支援推進課》

春から本格的な農作業が始まる前に、今年の営農の手がかりとして「輪作」について考えるのはいかがでしょうか。2020年12月に発行したアグリレポートVOL.28特集では「輪作で持続可能な畑づくり」として、健全な土壌の形成、維持は農業の基本であり、そのために「輪作」は有効な手段であることを紹介しています。ぜひ、参考にしてみてください。

バックナンバー アグリレポート VOL.28

特集「輪作で持続可能な畑づくり」

- 輪作の多面的効果とは
- 地域それぞれの輪作スタイル
- 水稲も組み込んだ空知型輪作
- 耕種連携で理想の輪作体系
- 飼料用とうもろこしと牧草の輪作



<https://www.hokuren.or.jp/kouho/ap/backnumber/28.pdf#page=4>





発行：ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. einousiensuisin@hokuren.jp